

丹後震災１００年記念事業実行委員会 委員名簿

No	役 職	氏 名	所 属	所属における 役職等
1		中山 泰	京丹後市	市長
2		橋爪 紳也	丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会	委員長
3		大井 良司	舞鶴海上保安部	部長
4		古庄 泰良	航空自衛隊第３５警戒隊	隊長
5		塩見 豊寿	京都府丹後広域振興局	局長
6		南郷 篤	京都府丹後土木事務所	所長
7		近藤 正樹	京都府丹後保健所	所長
8		安村 顕	京都府京丹後警察署	署長
9		川浪 隆将	京丹後市消防団	団長
10		辻宗 勝	NTT西日本株式会社京都支店	設備部長
11		山瀬 隆	関西電力送配電株式会社京都本部 宮津技術サービスセンター	所長
12		梅垣 守	北近畿タンゴ鉄道株式会社	施設統括本部長
13		畑山 穰	WILLER TRAINS 株式会社	運行本部長
14		中野 勝友	京丹後市議会	議長
15		上田 誠	北丹医師会	会長
16		谷口 潔	京丹後市区長連絡協議会	委員
17		中江 隆	京丹後市民生児童委員協議会	副会長
18		藤井 美枝子	京丹後市社会福祉協議会	会長
19		山内 美幸	京丹後市商工会	女性部長
20		和田 直子	京丹後市障害者団体連絡協議会	代表理事
21		森 重敬	京丹後建設業協会	会長
22		梅田 豊子	京丹後市女性連絡協議会	理事
23		麻田 友子	京丹後市国際交流協会	事務局長
24		吉野 有香	一般社団法人京丹後青年会議所	組織づくり委員会 委員長
25		吉井 大和	京都府立峰山高等学校	３年生
26		今田 緑里	京都府立丹後緑風高等学校	２年生
27		丸田 智代子	京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会	会長
28		味田 佳子	京丹後市市民遺産会議	会長
29		松本 明彦	京丹後市教育委員会	教育長
30		山添 勝弘	京丹後市消防本部	消防長

丹後震災１００年記念事業実行委員会 事業企画委員会 委員名簿

No	役 職	氏 名	所 属	所属における役職等
1		中山 泰	京丹後市	市長
2		橋爪 紳也	丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会	委員長
3		塩見 豊寿	京都府丹後広域振興局	局長
4		川浪 隆将	京丹後市消防団	団長
5		谷口 潔	京丹後市区長連絡協議会	委員
6		藤井 美枝子	京丹後市社会福祉協議会	会長
7		吉井 大和	京都府立峰山高等学校	3年生
8		今田 緑里	京都府立丹後緑風高等学校	2年生
9		丸田 智代子	京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会	会長
10		味田 佳子	京丹後市市民遺産会議	会長
11		梅田 豊子	京丹後市女性連絡協議	理事

丹後震災１００年記念事業実行委員会 事務局員名簿

No	役 職	氏 名	備 考
1	事 務 局 長	服部 忍	京丹後市危機管理監
2	事務局次長	中西 俊彦	京丹後市総務部長
3	事務局次長	川村 義輝	京丹後市教育委員会次長
4	事務局次長	安井 英人	京丹後市消防本部 総務課長
5	事 務 局 員	西木 勇互	京丹後市総務部 総務防災課係長
6	事 務 局 員	永岡 大樹	京丹後市総務部 総務防災課主任
7	事 務 局 員	炭屋 敦貴	京丹後市総務部 総務防災課主事
8	事 務 局 員	村田 雅之	京丹後市教育委員会 文化財保存活用課長
9	事 務 局 員	奥 勇介	京丹後市教育委員会 文化財保存活用課主任
10	事 務 局 員	萩原 辰典	京丹後市消防本部 総務課主任

丹後震災１００年記念事業実行委員会 事業計画

日程		会 議	実施事業	関連事業
6 月	4 日（木）	（１）第１回実行委員会（設立）		
	7 日（日）			（１）地域防災リーダー研修会 （２）みんなの防災広場 主催：（一社）京丹後青年会議所
7 月	中旬	（１）第１回 事業企画委員会		
8 月	30 日（日）		※京丹後市総合防災訓練（夏）	
9 月	上旬	（２）第２回 事業企画委員会		
10 月	中旬～ 下旬		（１）丹後震災遺構見学ツアー	
11 月	8 日（日）		（２）丹後震災１００年記念シンポジウム	
	中旬			（３）消防団火災想定訓練 （秋の火災予防運動（11/9～15））
12 月	上旬	（３）第３回 事業企画委員会		
1 月	中旬		（３）丹後震災１００年記念展示【１月～３月】	
3 月	7 日（日）		（４）消防フェア （５）丹後震災追悼行事 （６）丹後震災１００年記念冊子発行 ※京丹後市防災訓練（冬）	（４）消防団火災想定訓練 （春の火災予防運動（3/1～7））
	中旬	（２）第２回実行委員会（解散）		

企画書

丹後震災遺構見学ツアーwith 峰山高校

When (いつ)	11月1日
Where (どこで)	京都府立峰山高等学校
Who (だれに)	地域の人(最大80人)
What (なにを)	高校生による講演会+遺構見学ツアー
Why (なぜ)	防災の意識向上、地域の活性化
How (どうやって)	講演会またはスタンプラリー

目的

老若男女、年齢問わず、丹後震災について多くの人に認知してもらい、丹後震災の歴史並びに、震災の危険性を理解し、後世に繋げていく

概要

(1) 生徒による講演会

例として

生徒による講演会(30分)

PowerPointなどを用いて丹後地震での被害や災害が起こった時の対処法。

そこに問題などを出して、皆様に理解してもらう。

私たち高校生として感じることについて話す。

(2) ツアー+ネックレス作り

① ツアー+スタンプラリー(30分峰山小、30分丹後震災記念館)

<スタンプラリーの目的>

震災記念館の必要性のアプローチのためスタンプラリーの特性を用いた丹後震災の歴史並びに災害の危険性や知識を周知すること。

<概要>

- ・震災記念館付近にスタンプの設置
- ・参加者にスタンプを押して回ってもらう
- ・スタンプラリーの特性であるスタンプ台の設置により同台に災害関連のクイズを加えることにより、災害の知識を広める効果。

<スタンプの内容案>

丹後震災記念館



峰山小学校旧本館



郷村断層



慰霊塔

<3月消防フェアのスタンプ内容案（製作のみ）>



※上記画像は AI 生成

文字の色は決定済み

②笛ネックレスづくり (30分)

<概要>

参加景品として笛をプレゼントする。その際に、ネックレス部分を参加者自ら作ってもらう。笛自体は事前に作成しておく。

材料 80個制作

・ステンレス1mm

・ネックレス用紐

例



丹後震災に携わるデザインを施す
【レーザー加工機】

予算

目的	内容	単価	個数	合計
スタンプ本体	レーザー加工用スタンプシート A4	1,500	6	9,000 円
笛	ステンレス板 1.0×1000×2000	20,000	1	20,000 円
ネックレス	ネックレス紐	20,000		20,000 円
その他	・スタンプインク ・3Dプリンタ用樹脂 など	10,000		10,000 円
合計				59,000 円

丹後震災遺構見学ツアー事業計画書（案）

○概 要 丹後震災の遺構（断層）や復興建築をめぐるツアーを開催

○日 時 1回目：令和8年10月17日（土）午後1時～2時30分

2回目：令和8年11月1日（日）午後1時～3時

○内 容 断層（郷村断層等）や復興建築（丹後震災記念館、峰山小学校旧本館）を専門家の解説付き（ガイド）で巡る。あわせて、2回目は、峰山高等学校で高校生による震災に関する講演会を行うとともに、防災用笛の製作・配付を行う。

○参加料 無料

○内 容

【1回目～断層から知る丹後震災～】

- ・場 所 郷村断層（樋口地区・小池地区）・京丹後市立郷土資料館
- ・ルート 樋口地区→小池地区→郷土資料館
- ・時 間 約1時間30分
- ・参加者 小学生以上を対象、定員20名
- ・詳 細 郷村断層2箇所の説明後、郷土資料館に寄り被災資料を見学する。

【2回目～高校生が語る震災と復興のかたち～】 **<峰山高校との共同事業>**

- ・場 所 京都府立峰山高等学校、丹後震災記念館、峰山小学校旧本館
- ・ルート 峰山高校→丹後震災記念館・峰山小学校旧本館→峰山高校
- ・時 間 約2時間
- ・参加者 小学生以上を対象、定員80名
- ・詳 細 峰山高校で高校生が震災に関する講演会を開催（30分程度）。その後、高校内で防災用笛製作・丹後震災記念館・峰山小学校旧本館の3班に分かれて行動（各場所30分程度）。最後は峰山高校に帰着して流れ解散。
各場所で、高校生製作のスタンプラリーあり。
- ・その他 参加者の集合場所は峰山高校。道中の誘導は市職員、受付は高校生が行う。

丹後震災100年記念シンポジウム ～丹後震災の記憶を未来へつなぐ～ 事業計画書（案）

1 概要

1927年（昭和2年）に発生し、丹後地方に甚大な被害をもたらした「丹後震災」から100年という大きな節目を迎えるにあたり、当時の記憶と先人たちの復興の歩みを振り返り、その教訓を次世代へ継承するためのシンポジウムを開催する。

本事業では、市民、学生、防災関係機関、行政など多様な主体が世代を越えて集い、能登半島地震など近年の大規模災害を踏まえ、防災を「自分事」として捉え、自助・共助・公助の連携による「次の100年に向けた京丹後市の防災力（京丹後モデル）」を共に考え、具体的な行動へとつなげるきっかけとして開催するもの。

2 日時

令和8年11月8日（日）12：30～15：30

3 場所

- （1）京都府立丹後文化会館ホール
講演会・パネルディスカッション
- （2）京都府立丹後文化会館ホワイエ
関連イベント

4 参加者

目標 500人

【内訳】 大人：300人・中高校生：200人）

○出席案内予定者（文書発送）

	送付先	送付数	参加予想	備考
①	実行委員会委員所属団体	30団体	各団体3人程度 90人	
②	市内各区 （地域防災リーダー）	約200団体	70人	※防災リーダー研修会 の実績数
③	市内在住防災士 （地域防災リーダー）	約100人	20人	
④	消防団 （地域防災リーダー）		各町3人程度 18人	
⑤	防火ポスター表彰受賞者	7人	15人	保護者付き
			約200人	

5 参加料

無料

6 スケジュール

時間	演目	関連イベント
12:30	開場	○
13:00	開会	×
13:01	オープニング	
13:16	会長（市長）挨拶	
13:21	基調講演の講師登壇→紹介→講演	
13:50	全国火災予防運動 防火ポスター表彰式	
14:00	休憩（10分程度） 【舞台転換（基調講演→パネルディスカッション）】	○
14:10	パネルディスカッション	
14:50	閉会	○
15:30	閉場	×

7 内 容

（１）オープニング（約15分）

No	演目
候補①	<u>記録映像の上映</u> （例）NHKアーカイブ「1927年北丹後地震」 →丹後震災の記録映像を観て、当時の記憶を振り返り、この震災を乗り越えてきた歴史があることを再確認する。
候補②	<u>地元学生によるパフォーマンス</u> （例）書道パフォーマンス →震災の重み（黒）、未来への希望（朱）で震災と向き合い、風化させないというメッセージを込めて創作する。

(2) 基調講演 (約30分)

目 的 記憶の継承・過去と現在を繋ぐ

形 式： 対談 (2人)

テーマ： ー被災地の現場から学ぶ、未来への備えー

丹後震災100年の節目に、私たちが今すべきこと

内 容： 丹後震災の記憶と能登の教訓を対比。

→過去を悼むだけでなく、その経験を明日の行動へ変えることこそが最大の防災であると未来へ繋ぐ。

①丹後震災100年の意味

→振り返りと復興

②能登半島・穴水町のリアル

→発災直後や避難所での様子、一番困ったこと、想定外だったこと、
「もっとこう備えておけばよかった」という教訓

③能登の教訓を丹後へ

→半島特有の地理的条件 (インフラ寸断・孤立化のリスク) の確認、
木造密集地の倒壊リスクと、地域の「共助」の重要性

④パネルディスカッション (未来へのアクション) への橋渡し

→過去を悼むだけでなく、復興の歴史と最新の教訓を「今日からの備え」にどう変換するか。

司 会： (進行)	所属・肩書	氏名	専門分野
	大阪公立大学研究推進機構 特任教授	橋爪 紳也 氏	建築史、都市文化論、 観光学
ゲスト：	所属・肩書	氏名	
	石川県穴水町 参事	北川 人嗣 氏	

(3) パネルディスカッション：未来へのアクション（約40分）

目 的

①「自分事化」の促進

→「震災」を遠い歴史や他人事としてではなく、自分自身の生活や地域の課題として認識し直してもらうこと。

②「具体的行動」の引き出し

→高校生、消防、地域住民、行政といった各主体の目線から、今日からできる具体的な「一歩」を引き出す。

③「次の100年」へのバトン

→過去の経験を教訓として終わらせず、世代や組織の壁を越えて協力し合うための「京丹後モデル」のきっかけを見つける。

内 容

第1部 【現状確認】過去と現在を繋ぐ ― 防災の「強み」と「課題」

第2部 【未来へのアクション】次世代へつなぐ一歩 ― 私たちが今日から始めること

コーディネーター

役割	所属・肩書・氏名
各登壇者の経験と未来へのアクションを結びつける「架け橋」となる。	丹後震災100年記念事業実行委員会 会長（市長） 中山 泰 氏

登壇者

- ・ 人 数：最大5人程度を予定
- ・ 候補者

	役割	所属・肩書・氏名
①	語り部 →震災の記憶を伝える地域の方として、教訓を単なる過去の話に留めず、現代の地域防災にどう活かすべきかという視点を提供する。	丹後語り部の会 会長 東 哲 氏
②	消防・防災 →地域の防災の要として、地域防災力の現状と課題を率直に共有し、消防団と市民が連携するために必要な具体的な協力体制や心構えを提示する。	京丹後市消防団【女性予定】 〇〇 〇〇 〇〇氏
③	地域 →自治会・自主防災組織・地域防災の取り組みについて紹介を行い、他地域でも応用可能なヒントを提示や地域としてどう災害に向き合うか。	いやさかTOKIWA協議会 〇〇 〇〇 〇〇氏
④	高校生 →「次世代の視点」と「柔軟な発想」の提供。若者だからこそ気づく点、日常からの防災意識について提言し、大人の防災に新しい風を吹き込む。	峰山高等学校 〇年生 〇〇 〇〇氏
⑤	ジオ（地質学） →北但馬地震（1925年）と丹後震災（1927年）の連続した地震史から地質と災害リスクを解説。ジオパークの知見を活かし、自然と共生し「正しく備える」地域づくりのヒントを提示。	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 講師（博士（理学）） 松原 典孝 氏

(4) 関連イベント

場所	内容	
屋内 【ホワイエ】	パネル 展示	①丹後震災関連資料（担当：文化財保存活用課） ②石川県穴水町震災の記録 ③火災予防のポスター表彰式 （特選1名、入選3名、佳作6名の作品紹介）
	ブース 出店	①自衛隊（陸・海・空） ②海上保安庁 ③京丹後市消防団（団員確保） ④アルファ食品株式会社（アルファ米等保存食） ⑤大槻ポンプ工業株式会社（保存食・防災グッズの展示） ⑥峰山高等学校機械創造科 ⑦総務防災課（防災アプリ・防災資材展示） ⑧京丹後市青年会議所
屋外 【駐車場】	体験	①起震車体験

(5) 火災予防のポスター表彰式

特選1名、入選3名、佳作6名の作品紹介、表彰状の授与を行う。

8 周知方法

- (1) 市広報「京丹後」、市HP及び市FB、市教育委員会インスタ
- (2) チラシ新聞折込み及び配架